

糸撚 - 松波団地 -

いとより
人々の行き交いと自助・共助で地域活力を育む

1. 目的、背景

日々の暮らしが息づく場

町の人たちが安心して暮らしを続けられるよう、これからの住まいとまちのかたちを整えることを目的とします。

単に家を建てるだけでなく、日々の暮らしが息づき、笑顔が溢れる場所をつくる。住宅や集会所、広場などをひとつながりの環境として整備し、暮らしの基盤と地域の関係を、これからの時代に合ったかたちで再生します。

2. 地域の課題と今後の方針

「見守りあい」が「安心」となるまち

能登のまちは、雪や雨、潮風など自然と向き合いながら暮らしてきました。今、求められているのは「災害に強い家」だけでなく、人が助け合い、見守り合いながら穏やかに暮らせる日常です。

高齢化が進むなかでも、誰かの気配を感じながら安心して暮らせる環境をどうつくるかが、これからの能登にとって大切なテーマです。

3. コンセプト

ひとりではほどけてしまう糸も、撚り合えばしなやかに、強くなる。

人と人、手と手、思いと時間が撚り合い、日々の暮らしをやさしく支えていく。

「撚り合う能登」——

それは、互いを想い合いながら育てていくまちの姿。

そっと手をかけ、声をかけ、心をかけて、これからの一緒に紡いでいくまちを目指します。

4. 基本方針 撚り糸を強くする3つの柱

この「撚り合う能登」を具体化するために、計画の基盤となる三つの柱を定めました。

撚り
合う
能登

安心と安全

自然とともに暮らしながら、日常の安心ともしもの備えを両立する。

つながり

人の行き交いをデザインし、見守りと支え合いが自然に生まれるまちを育てる。

持続する暮らし

長く住み継げる住まいを、地域の力と素材でつくり、未来へつなぐ。

これら三つの柱がより合わさることで、暮らしがほどけず、強く続く能登を形づくりします。

5. 基本情報

住宅棟

建物構造 : 木造 CLT パネル工法

規模 : 地上3階建 / 建築面積 1,006.12 m² / 延床面積 1,964.35 m²

住戸数 : 全27戸

Lタイプ9戸

Mタイプ12戸

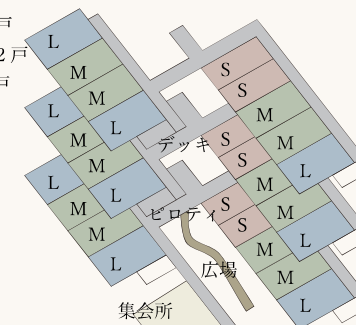
Sタイプ6戸

集会所

建物構造 : 木造軸組工法

建築面積 : 67.84 m²

延床面積 : 54.66 m²



6. 計画のポイント

安心と安全 つながり 持続する暮らし

松波ののびやかな景観になじむ住棟計画

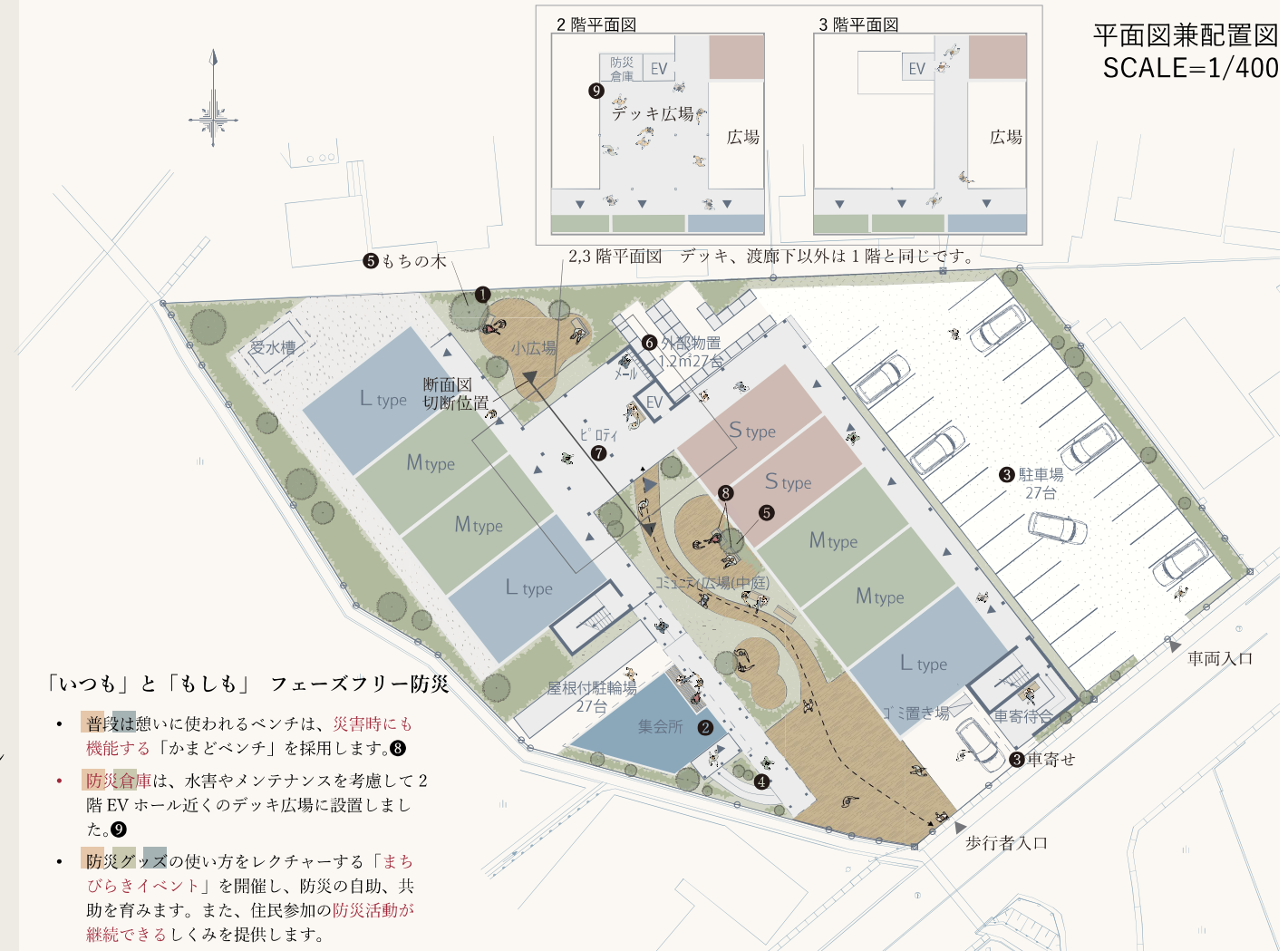
- 住棟計画は、松波ののびやかな町並みや里山の景観に溶け込むよう建物ボリュームを低減し、光と風が通る中庭（コモンスペース）を計画しました。
- 歩きながら、会話が生まれるような歩路や建物のデザイン、視界の先に里山の景色を楽しめる計画としています。
- 駐車場、小広場を隣地側に、住棟を敷地中央付近に配置し、隣地への圧迫感の軽減、日照、採光、通風、防音、視線に配慮しました。建物が近い箇所は、中高木を配置し、防犯、プライバシーを確保しています。

コミュニティ創生を促すコモンスペースと集会場

- 計画地への出入口を広く確保し「歩車分離」をすることで安全性に配慮しました。
- 集会場や中庭（コモンスペース）など人溜まりができる場所にアイストップとしての高木、足元には季節の移ろいを楽しめる花や緑を配置し、人のつながりを生む植栽計画とします。①
- 中庭に面する集会場は、地域住民も気軽に利用できるよう道路沿いに配置しました。広場と一体的に利用でき、地域のお祭りや住民の寄合の場として「ハレとケ」の使い方ができる空間です。②
- 交流が自然と生まれるよう、施工段階の壁塗装や舗装、植栽を植えるなどの住民参加イベントを計画していきます。
- 住戸が中庭に面することで、将来的にワーキングスペースや小商い、店舗などに改修することができ、新規入居者、移住者の希望やチャレンジを叶えることが可能です。

高齢者も子育て世代も入居したくなるユニバーサルデザイン

- 広場側にバルコニーを設け、住戸内の気配が感じられる計画とし、住民同士で高齢者のみの世帯や子どもへの見守りが、日常生活の中で可能になるよう配慮しました。
- 避難経路は2方向避難を基本とし、生活動線がそのまま避難路となるように設計しました。
- 住戸の入り口は廊下に一直線に設け、防犯上死角のない計画となっています。
- 1階バルコニー前の植栽帯は、景観を保ちつつプライバシーに配慮するしかけです。
- 駐車場は視認性よく真っすぐに配置し、安全に待機できる位置に車寄せを設ける計画としました。③
- 車いすの利用に配慮し、動線にはスロープを設置。玄関扉は引き戸とすることでバリアフリーに配慮します。
- 集会所は、段差を取り除くなど、誰もが使いやすいユニバーサルデザインとすることで交流を妨げない計画としました。④



「いつも」と「もしも」 フェーズフリー防災

- 普段は憩いに使われるベンチは、災害時にも機能する「かまどベンチ」を採用します。⑤
- 防災倉庫は、水害やメンテナンスを考慮して2階EVホール近くのデッキ広場に設置しました。⑥
- 防災グッズの使い方をレクチャーする「まちびらきイベント」を開催し、防災の自助、共助を育みます。また、住民参加の防災活動が継続できるしるしを提供します。

能登の環境、風土を生かした仕様

- 透水性のある舗装を採用することで、雨水浸透の場が増え、洪水などの災害を抑制し、かつヒートアイランド現象の緩和を行います。
- 能登瓦などの廃瓦をリサイクルした舗装や、まちに由来する「もちの木」と「のとぎりしまつじ」を採用し、地域の伝統や植生を未来に受け継ぎます。⑤
- 地域の植生に合わせた在来種を積極的に採用し、生態系に配慮した計画としました。

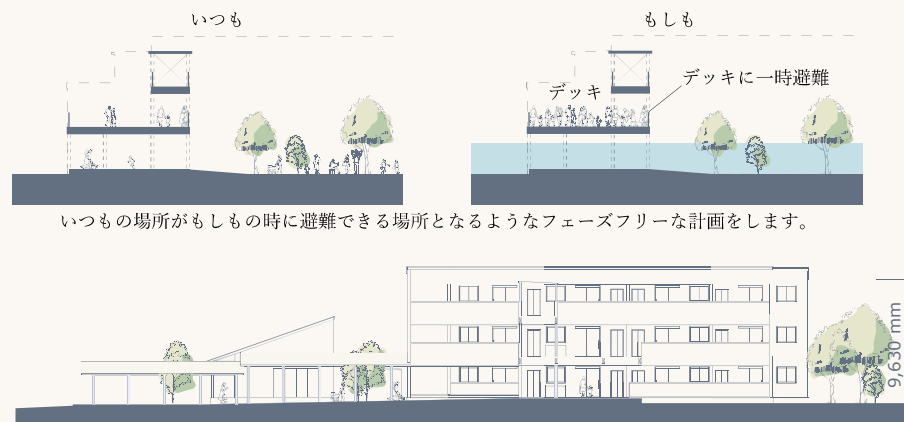
気候への配慮、維持管理のしやすさ

- 除雪用具や冬用タイヤなどの季節用具を収納する外部物置は、利便性に配慮し駐車場に隣接して設けました。⑥
- アプローチ・風除室等の床は、対凍害仕様で滑りにくい仕上げとします。
- 住棟の出入り口や共用廊下、集会場の軒を広くとり、雨雪の吹込みや悪天候でも快適に暮らせるように設計します。⑦
- 駐車場は入居者の安全かつ円滑な駐車に加え、除雪の障害となる車止め等は設けない計画とします。
- 気候の影響を受ける外壁は、対候性のよいサイディングを採用します。

間取り図 SCALE=1/100

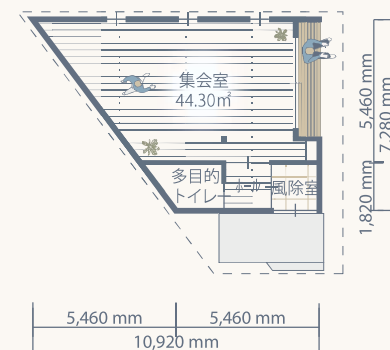


断面図、立面図 SCALE=1/400



集会所図面 SCALE=1/200

- 集会所は、広場に面する開口に大きな掃き出し窓を設け「交流の見える化」を行うとともに、縁側空間が自然を感じながら交流が生まれる場をつくります。



住みやすく、健康で省エネ暮らし

- 内装には弊社オリジナル仕様の高耐久クロスを使用しました。汚れにくい資材で、維持管理コストの縮減となります。
- 玄関扉は引き戸とし、バリアフリーに配慮します。
- 高耐久・高断熱のアルミ樹脂複合サッシや、高遮熱・高断熱仕様のLow-E 複層ガラス、照明はすべてLEDにするなど、環境や省エネに配慮した仕様・資材を採用しています。
- 廊下は極力短くし、ヒートショックを防ぐ間取りとしました。
- 引き戸を採用することで、中間期には自然の空気の流れを利用して効率的に換気できる風通しの良い省エネにつながる計画としました。

シンプルで地球にやさしい工法・構造計画

- 構造は環境にやさしい木造CLT構造とします。
- 将来的なコンバージョンも視野に入れ、可変しやすい構造計画とします。
- 地震に強い外構配管材を採用し、災害時でも入居者の生活を継続しやすい計画とします。
- 入居者に木のぬくもりが感じられるよう、一部はCLTの現しとします。



- 視認性の高い集会所の屋根には能登瓦を採用し、その下には人がたまる縁側空間を作ります。比較的风雪の影響を受けない縁側の壁は下見板張とすることで能登らしさを表現しました。

